

伊勢・三河湾貧酸素情報(H29-9 号)

平成 29 年 8 月 25 日
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成 29 年 8 月 23、24 日に伊勢湾、8 月 23 日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

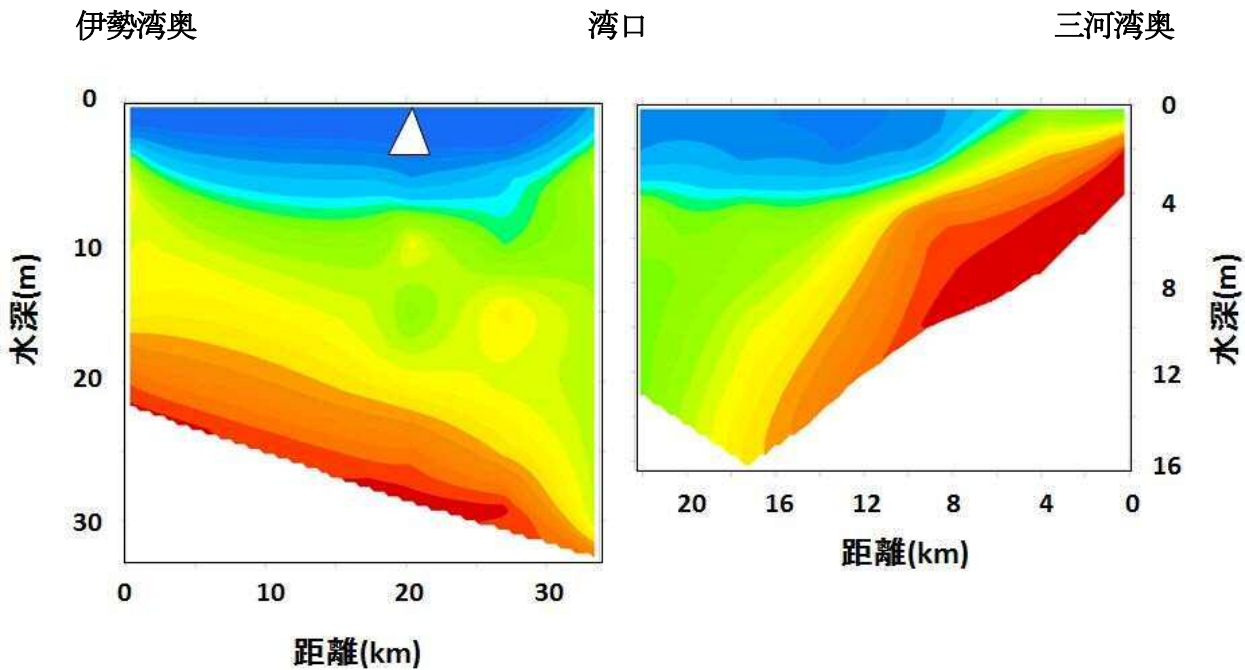
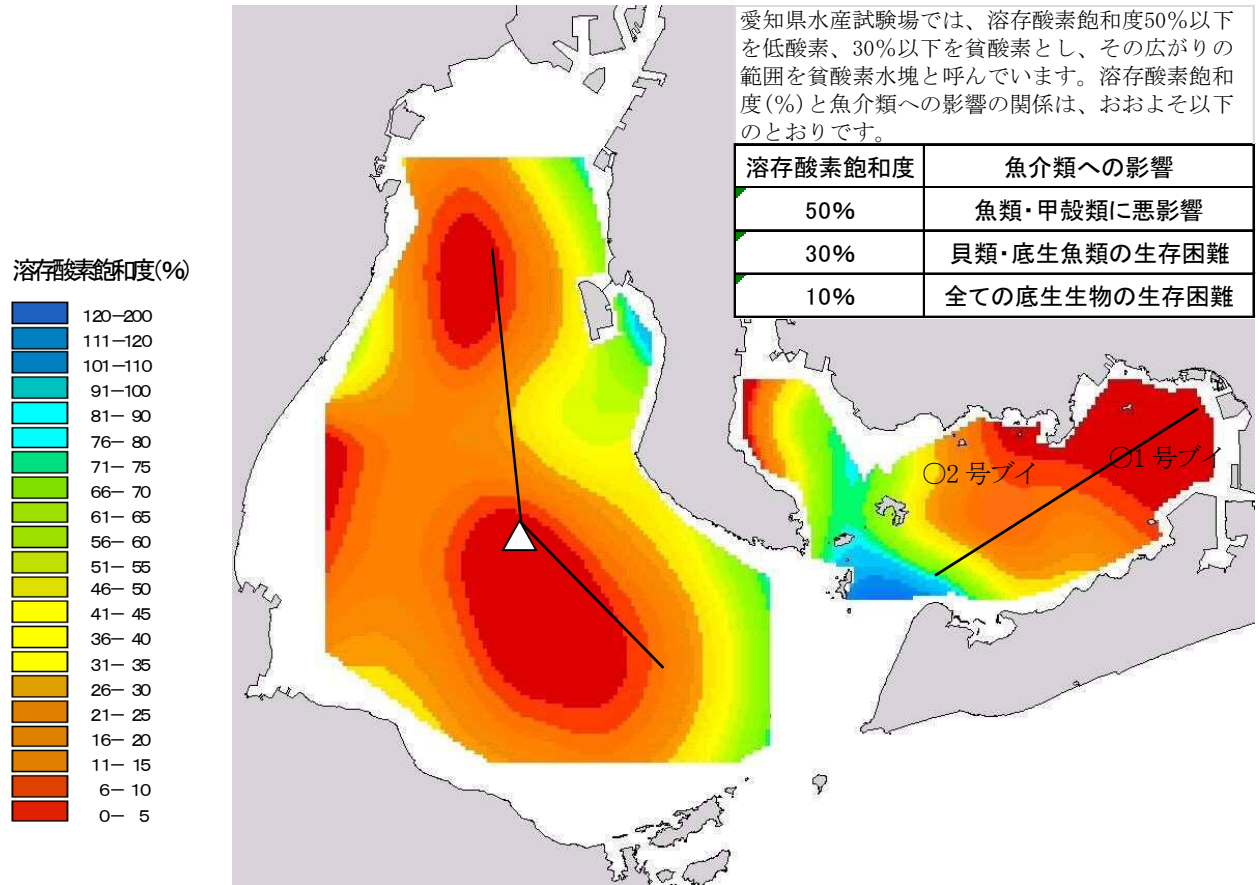


図1 伊勢湾(8月23、24日)・三河湾(8月23日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「海幸丸」、「へいわ」調査)

伊勢湾

8月23、24日の調査結果を図1及び表1に示しました。前回調査(8月10日)から継続して広範囲に溶存酸素飽和度30%以下の範囲が広がっており、湾奥部では貧酸素の層が厚みを増している様子が観測されています(図1)。

今後は、表層と底層の水温及び塩分の差が大きいことから、海水の上下混合が起こりにくいため、貧酸素水塊の規模は維持されると考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	27.5~29.7	12.2~30.8
底層	19.6~24.7	23.8~33.8

三河湾

8月23日の調査結果を図1及び表2に示しました。前回調査(8月15日)に比べて知多湾の一部で貧酸素水塊が拡大しました。渥美湾奥部では依然として底層の溶存酸素飽和度が低くなっています(図1)。

自動観測ブイ1号(蒲郡沖)のデータを見ると、底層では貧酸素水塊が継続して観測されています。自動観測ブイ2号(吉良沖)のデータを見ると、16日から底層で徐々に発達していた貧酸素水塊は、20日の午前から21日の午後にかけて風速2.7~7.9m/sの南南東から東南東の風が断続的に吹いた影響で、一時的に南東へ移動したと考えられますが、その後貧酸素水塊は徐々に発達してきています(図2)。

また、22日の午後9時以降に風速2.1~8.5m/sの北から西の風が吹いたことにより、23日には西浦半島から豊川市御津町地先までの範囲で苦潮の発生が確認されましたが、湧昇した貧酸素水塊は全体の一部であったと考えられます。

今後は、表層と底層の水温及び塩分の差が大きいことから、海水の上下混合が起こりにくいため、貧酸素水塊は継続すると考えられます。また、岸から沖へ向かう風が継続して吹くと岸側に苦潮が発生する可能性があります。注意が必要です。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.5~29.9	23.3~32.1
底層	24.9~26.4	32.0~32.9

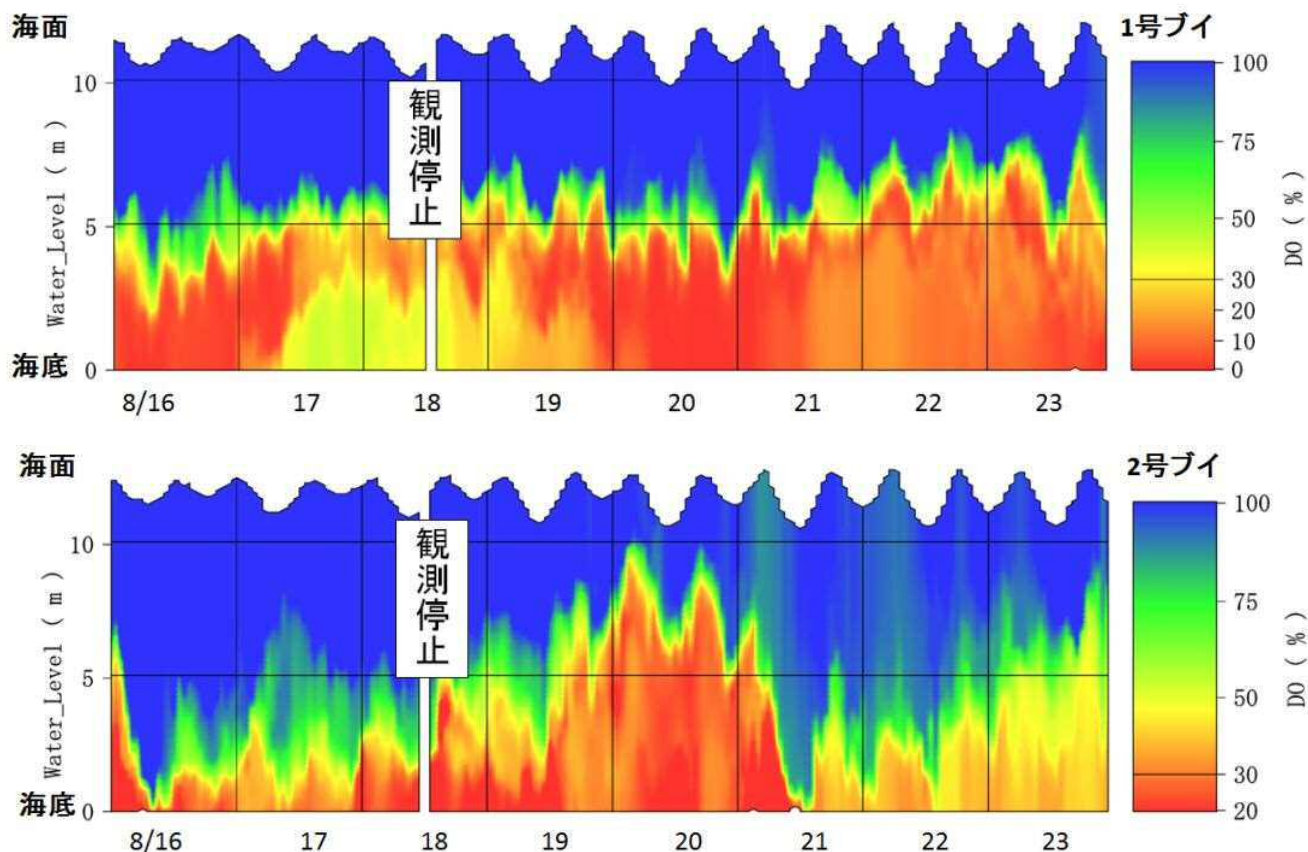


図3 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(上段:自動観測ブイ1号、下段:2号)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

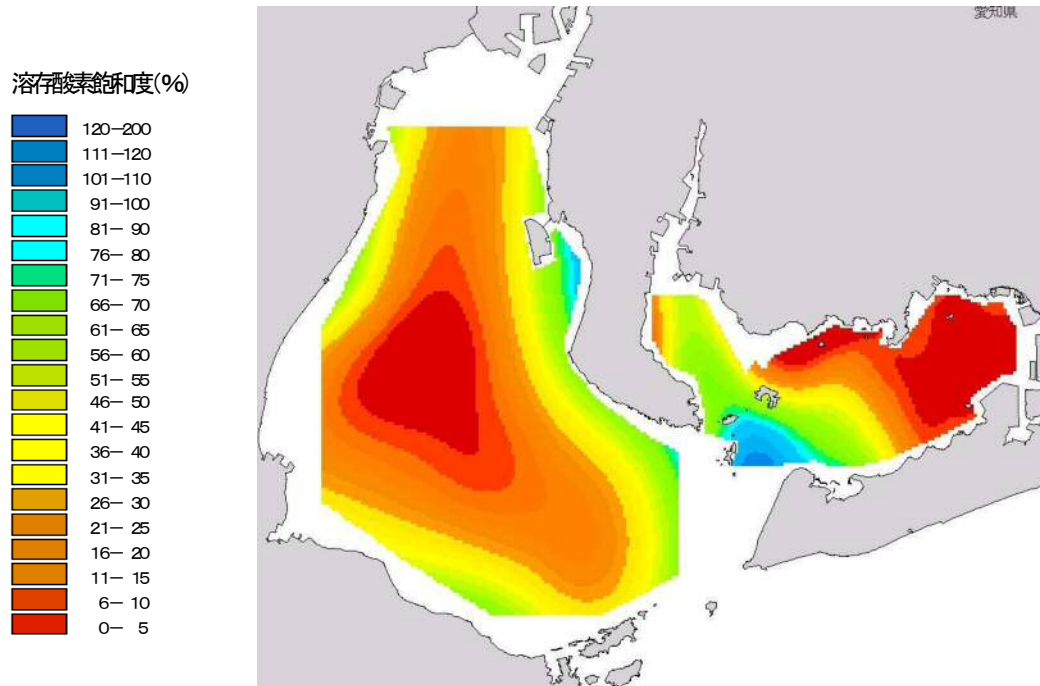


図4 平成29年8月10日(伊勢湾)、8月15日(三河湾)